

令和2年度

佐潟周辺自然環境保全計画評価シート



令和2年度 佐潟のハクチョウ

佐潟で活動する事業等の令和2年度取り組み評価シート

表. 第4期佐潟周辺自然環境保全計画の目標と取り組み項目一覧

基本的な方針	目標	取り組み項目	
<p>【基本的な方針Ⅰ】 生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人の関わりのなかで多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てていく。</p>	<p>目標(1)多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり</p> 	<p>ア 潟固有の水生植物が生息しやすい環境をつくる イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる ウ 外来動植物が生息・生育しないための効果的な駆除対策を行う エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる オ 魚介類が生息しやすい環境をつくる カ ブラックバスなどを入れさせない防止活動を進める キ ゾーニングの手法を用いて守り育てる環境保全方法を検討する</p>	
	<p>目標(2)佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全</p> 	<p>ア 緑地帯を保全する イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する ウ 適正な水位管理を実施する エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う</p>	
	<p>目標(3)調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進</p> 	<p>ア モニタリング調査を継続して実施する イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する ウ 潟の研究を多面的にすすめる</p>	
	<p>【基本的な方針Ⅱ】 先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。</p>	<p>目標(4)昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり</p> 	<p>ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する イ 地域文化を発掘、継承し、発信する ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る エ 佐潟及び佐潟周辺地域を核とした持続可能な地域づくりを推進する</p>
	<p>【基本的な方針Ⅲ】 市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。</p>	<p>目標(5)福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進</p> 	<p>ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる</p>
		<p>目標(6)佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開</p> 	<p>ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する イ ラムサール条約登録湿地間の連携、ガンカモ類保護ネットワークの構築を行う</p>

基本的な方針 I

生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人と

目標 (1) 多種多様な動植物が息息・生育しやすい環境づくり

取り組み項目：ア 潟固有の水生植物が生育しやすい環境をつくる

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業				団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題	
ハスの生育調査	2年前から激減したハスの生育状況調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)		1 5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査実施。上潟および御手洗潟ではハスは旺盛に生育するが、下潟では水深の浅い場所での生育は確認できなかった。	2019より下潟でハスが生育しない状況が続いている。水質の悪化（アオコの大量発生）、外来生物等による食害、水位管理の変化などが原因と考えられ、一つ一つを改善することが必要。佐潟と歩む赤塚の会と共に復活に向けたハスの育成を開始した。	(公財)新潟県都市緑花センター
エコトーン整備	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		6月～10月 (月1回程度)		2 5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査および手入れを実施。昨年同様、希少種であるデンジソウ・ヤナギトラノオ・ミズアオイの生育を確認したが、水深の深いエリアではヒメガマが繁茂する他は他の植物出現は見られなかった。	希少種を保全する環境は出来上がったが、さらに種数を増やしたり、継続して環境を整えるためには、人為的なくく乱や草刈り等の管理作業をもっと行う必要がある。水深の深い場所は水生植物が育てないため、佐潟の底泥を追加し、水深を浅くしつつ埋土種子の供給も行う必要がある。	(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)		1 5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査を実施。重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、サデクサ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化（アオコの大量発生）、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理（水位の変化）は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。	(公財)新潟県都市緑花センター
佐潟ハス復活プロジェクト	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 (①種を発芽処理、②株分け、育苗)	   	①令和2年4月26日(日) ②令和2年5月24日(日)		①13 ②14 各人が自宅で育てたハスの苗を持ち寄り、潟のドロを入れたバケツ、トロ舟などに移し替える作業を5月24日、実施した。全部で約200株。 R2年9月末にトロ舟で育てたハスを掘り出してみたところ、小さいながら蓮根が形成されていた。霜にあたらないようブルーシートを掛け、越冬させた。	R3年度事業では蓮根を観察舎脇の水田(320平方メートル)に植え付けて経過を観察する。下潟での再生を考えた場合、多くの苗が必要。より広範な活動とする必要がある。	佐潟と歩む赤塚の会

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
佐潟水門前の砂礫質堆積物撤去作業	水門前のコンクリートの土台付近に堆積した砂礫質の土砂撤去を行う。		令和2年10月16日（金）	令和2年10月16日に重機を用い、水門前のコンクリートの土台付近に堆積した砂礫質の土砂を撤去した。10月21日に新潟水辺の会、佐潟と歩む赤塚の会からご協力いただき、水門付近の水深及び底泥の堆積量調査を実施した。	第31回佐潟協議会で示した土砂の堆積状況と比較し、土砂の除去によって水門近くの泥の層が少なくなったことも明らかとなった。また、佐潟橋の上流側の底泥の堆積量も調査したが、佐潟橋の上流側は泥の堆積物がそのまま残っていることが明らかとなった。	環境政策課
地域関係者との意見交換	土砂撤去工事の共有し、今後のあり方について意見交換を行う。	 	令和2年11月24日（火）	6 【開催場所】西区赤塚公民館 コミュニティ佐潟、佐潟と歩む赤塚の会、新潟水辺の会、（公財）新潟県都市緑花センター、環境政策課、西区地域課	水門前の土砂撤去及び、湖底の泥の堆積状況調査を地域関係者が共有し、水位管理の状況や今後のあり方について意見交換を行った。かつて佐潟が実施していた水位管理を実施することで関係者の合意を得た。	環境政策課

取り組み項目：イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる

エコトーン整備【再掲】	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		6月～10月 （月1回程度）	2 5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査および手入れを実施。昨年同様、希少種であるデンジソウ・ヤナギトラノオ・ミズアオイの生育を確認したが、水深の深いエリアではヒメガマが繁茂する他は他の植物出現は見られなかった。	希少種を保全する環境は出来上がったが、さらに種数を増やしたり、継続して環境を整えるためには、人為的なく乱や草刈り等の管理作業をもっと行う必要がある。水深の深い場所は水生植物が育てないため、佐潟の底泥を追加し、水深を浅くしつつ土種子の供給も行う必要がある。	（公財）新潟県都市緑花センター
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 （月1回程度）	1 5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査を実施。重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、サデクサ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化（アオコの大量発生）、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理（水位の変化）は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。	（公財）新潟県都市緑花センター

取り組み項目：エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる

鳥類標識調査	環境省管轄（山階鳥研主導）の全国的な渡り鳥調査に参加し、定期的に実施する。		①令和2年4月中旬～5月下旬 ②令和2年10月中旬～11月上旬	5～7 ①の初夏の部はコロナ禍への対応として中止	②秋の部は10月17日～11月7日の間に合計7日間実施した。	佐潟鳥類標識グループ
佐潟パトロール	上潟及び下潟において、都市公園条例にて禁止されているルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施する。	  	6月から11月の土休日	6月から11月の土休日にルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施した。	釣り人と思われる車を発見し、駐車車両へ注意の張り紙を行った。	西区建設課

目標（２）佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全

取り組み項目：ア 緑地帯を保全する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
西区佐潟公園樹木芝生等管理業務委託	公園を構成している植物の生理・生態的特徴を十分理解して健全な育成を図り、植物空間の充実・完成をさせ、公園機能を維持するために技術的管理を行う。	 	令和2年4月10日から令和3年3月12日まで	令和2年4月10日から令和3年3月12日までの期間に樹木芝生等の維持管理を継続的に実施した。	植物の健全な育成に必要な維持管理を行うことで、公園機能を確保し、公園利用者への環境整備を図った。	西区建設課

取り組み項目：イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する

水質調査	佐潟5カ所、御手洗潟3カ所について毎月1回水質測定を行う。		毎月1回		佐潟5カ所、御手洗潟3カ所について毎月1回水質測定を実施した。	水環境の把握とともに保全のための基礎資料とする。	環境対策課
身近な水環境の全国一斉調査	世界環境デーに合わせて全国で河川、湖沼の水質調査を一斉に行う。		令和2年6月1週	13	新潟市の河川及び他の潟と比較し、御手洗潟と佐潟の水質が悪い状態が続いている。	水質悪化の原因を探ると共に、アオコ発生を将来無くすための対策を、今年度中に行う事が求められている。	新潟水辺の会
佐潟水門前の砂礫質堆積物撤去作業	水門前のコンクリートの土台付近に堆積した砂礫質の土砂撤去を行う。		令和2年10月16日（金）		令和2年10月16日に重機を用い、水門前のコンクリートの土台付近に堆積した砂礫質の土砂を撤去した。10月21日に新潟水辺の会、佐潟と歩む赤塚の会からご協力いただき、水門付近の水深及び底泥の堆積量調査を実施した。	第31回佐潟協議会で示した土砂の堆積状況と比較し、土砂の除去によって水門近くの泥の層が少なくなったことも明らかとなった。また、佐潟橋の上流側の底泥の堆積量も調査したが、佐潟橋の上流側は泥の堆積物がそのまま残っていることが明らかとなった。	環境政策課

取り組み項目：エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を 含めた広域的な保全を行う

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
佐潟周辺自然環境保全連絡協議会の開催	佐潟に関わる団体や有識者から出席いただき、佐潟に関する様々な取組みの報告や保全と賢明な活用に向けた検討を行う。	  	令和2年8月4日(火)	25 令和2年8月4日に第31回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会を開催した。 令和3年3月開催予定だった第32回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会については、令和3年4月に書面開催とした。	佐潟水門前の砂礫質堆積物撤去作業と湖底の泥の堆積状況調査を地域関係者に共有し、水位管理の状況について意見交換を行った。水位管理が実施できるよう、具体的な方法に関して関係者と協議しながら検討したい。水位管理を通して、ハスの復活に関する効果やアオコの発生への影響を確認することが必要。	環境政策課

目標（3）調査・研究結果の有効活用 による自然環境保全の推進

取り組み項目：イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する

新潟県水鳥湖沼ネットワークとの連携	新潟県水鳥湖沼ネットワークからの情報提供を受け、調査結果を本市のホームページでも紹介した。		令和2年10月～令和3年3月	毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークから情報提供を受け、活動内容や調査結果を本市のホームページでも紹介し、情報発信を行った。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。	環境政策課
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1 5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査を実施。重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、サデクサ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化（アオコの大量発生）、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理（水位の変化）は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。	(公財)新潟県都市緑花センター

基本的な方針Ⅱ

先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。

目標（４）昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり

取り組み項目：ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名	
			開催日程	実施結果	効果と課題		
ラコテ赤塚	6月、8月は佐潟水門下のごみ拾いを行う。 7月は旧保育園水路沿いのごみ拾いを行う。	 	令和2年6月2日(日)※中止 令和2年7月5日(日) 令和2年8月29日(日)※中止	①7/5、10人 ②8/23、10人 ③9/20、8人	①不法投棄のタイヤなどを回収し、1時間ほどで終了	佐潟と歩む赤塚の会	
佐潟クリーン活動	関係団体、企業、地域の方々と協働して、佐潟のクリーン活動及び緑化活動を行う。		初回は新型コロナウイルスの影響をうけて中止 令和2年10月2日(金)	160	全校生徒150名で、佐潟公園にチューリップの球根(2500球)を植えた。	春に佐潟を訪れる市民の目を楽しませた。生徒は、観光地としての佐潟の環境を整えることの意義や心得を学んだ。	赤塚中学校
佐潟クリーンアップ活動	ドロ上げ、ヨシ刈りなどを通して佐潟の現状を確認する。またトバスなどの潟の産物を味わう。	  	令和2年9月26日(土)～27日(日)	約200	新型コロナウイルスの影響を受けて中止	コロナ禍で参加者を募っての活動は困難なため、当会のメンバーなどで9月26日、水門付近の保全活動などを実施した。16人参加。	佐潟と歩む赤塚の会
春の潟普請	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	  	令和3年3月28日(日)	13	R2年はコロナ禍で中止、2年ぶりに実施した。上潟から2班に分かれて散策。軽トラの荷台には空き缶や農薬缶を積み込んだ。		佐潟と歩む赤塚の会
秋の潟普請	上潟の底上げやごみを回収する。	  	令和2年9月26日(土)～27日(日)		新型コロナウイルスの影響を受けて中止		佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名	
			開催日程		実施結果		効果と課題
佐潟ハス復活プロジェクト 【再掲】	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 (①種を発芽処理、②株分け、育苗)	   	①令和2年4月26日(日) ②令和2年5月24日(日)		各人が自宅で育てたハスの苗を持ち寄り、潟のドロを入れたバケツ、トロ舟などに移し替える作業を5月24日、実施した。全部で約200株。 R2年9月末にトロ舟で育てたハスを掘り出してみたところ、小さいながら蓮根が形成されていた。霜にあたらないようブルーシートを掛け、越冬させた。	R3年度事業では蓮根を観察舎脇の水田(320平方メートル)に植え付けて経過を観察する。下潟での再生を考えた場合、多くの苗が必要。より広範な活動とする必要がある。	佐潟と歩む赤塚の会
佐潟パトロール 【再掲】	上潟及び下潟において、都市公園条例にて禁止されているルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施する。	  	6月から11月の土休日		6月から11月の土休日にルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施した。	釣り人と思われる車を発見し、駐車車両へ注意の張り紙を行った。	西区建設課
潟舟体験(佐潟まつり)	潟舟で湖面に繰り出して佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水生植物を観察する。	   	令和2年8月29日(土)		新型コロナウイルスの影響を受けて中止		佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：イ 地域文化を発掘、継承し、発信する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名	
			開催日程	実施結果	効果と課題		
ラコテ赤塚 【再掲】	6月、8月は佐潟水門下のごみ拾いを行う。 7月は旧保育園水路沿いのごみ拾いを行う。	 	令和2年6月2日(日)※中止 令和2年7月5日(日) 令和2年8月29日(日)※中止	①7/5、10人 ②8/23、10人 ③9/20、8人	①不法投棄のタイヤなどを回収し、1時間ほどで終了	佐潟と歩む赤塚の会	
佐潟クリーン活動 【再掲】	関係団体、企業、地域の方々と協働して、佐潟のクリーン活動及び緑化活動を行う。		初回は新型コロナウイルスの影響をうけて中止 令和2年10月2日(金)	160	全校生徒150名で、佐潟公園にチューリップの球根(2500球)を植えた。	春に佐潟を訪れる市民の目を楽しませた。生徒は、観光地としての佐潟の環境を整えることの意義や心得を学んだ。	赤塚中学校
佐潟クリーンアップ活動 【再掲】	ドロ上げ、ヨシ刈りなどを通して佐潟の現状を確認する。またトバスなどの潟の産物を味わう。	  	令和2年9月26日(土)～27日(日)	約200	新型コロナウイルスの影響を受けて中止	コロナ禍で参加者を募っての活動は困難なため、当会のメンバーなどで9月26日、水門付近の保全活動などを実施した。16人参加。	佐潟と歩む赤塚の会
春の潟普請 【再掲】	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	  	令和3年3月28日(日)	13	R2年はコロナ禍で中止、2年ぶりに実施した。上潟から2班に分かれて散策。軽トラの荷台には空き缶や農薬缶を積み込んだ。		佐潟と歩む赤塚の会
秋の潟普請 【再掲】	上潟の泥上げやごみを回収する。	  	令和2年9月26日(土)～27日(日)		新型コロナウイルスの影響を受けて中止		佐潟水鳥・湿地センター

取り組み項目：ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名	
			開催日程	実施結果	効果と課題		
佐潟昆虫館観察会	地元大学生を講師に佐潟周辺に生息するカブト虫などを小学生らと採集して生態について学習する。	  	令和2年7月23日(木・祝)	10 雨天中止		佐潟と歩む赤塚の会	
潟舟体験	潟舟で湖面に繰り出して五感で佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水性植物を観察する。	   	①令和2年4月12日(日) ②令和2年7月5日(日) ③令和2年7月24日(日) ④令和2年9月13日(日) ⑤令和2年10月6日(日)	7/5 7人 8/23 9人 9/20 20人	潟舟に乗船した市民は湖面からの景観を堪能できた。強風、悪天候で運行中止、日程変更が度々発生した。	コロナ禍での運行のため、乗客毎に手すりを清掃するなど除菌対策を行った。	佐潟と歩む赤塚の会
ハクチョウ観察会	ハクチョウの飛び立ち、着入りを観察する。	   	令和3年1月16日(土)	中止		佐潟と歩む赤塚の会	
佐潟de潟舟体験	潟舟体験バスツアー	   	令和2年7月24日(金・祝)	14	新潟市歴史博物館が主催する「潟のくらし展」の企画の一つとして市民が潟舟を体験		佐潟と歩む赤塚の会
潟舟体験(佐潟まつり) 【再掲】	潟舟で湖面に繰り出して佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水生植物を観察する。	   	令和2年8月29日(土)		新型コロナウイルスの影響を受けて中止		佐潟と歩む赤塚の会

基本的な方針Ⅲ

市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。

目標（５）福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進

取り組み項目：ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
第25回佐潟市民探鳥会	世界湿地の日の関連事業として、にいがた野鳥の会を講師に迎え、水鳥を始めとした冬鳥の観察会を開催する。		令和3年1月17日（日）	大寒波による大雪等の影響で中止	事前のPR効果があり、当日は天候にも恵まれたため多くの方の参加があった。探鳥会を通して、佐潟の魅力を伝えることができた。	環境政策課
新潟県水鳥湖沼ネットワークとの連携【再掲】	新潟県水鳥湖沼ネットワークからの情報提供を受け、調査結果を本市のホームページでも紹介した。		令和2年10月～令和3年3月	毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークから情報提供を受け、活動内容や調査結果を本市のホームページでも紹介し、情報発信を行った。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。	環境政策課

取り組み項目：イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる

潟シンポジウムの開催	里潟の取り組みを多くの人に知ってもらうためのシンポジウムを開催した。		令和2年12月12日（土）	60 ラムサール条約湿地自治体認証制度の理解を深め、潟を次世代につなげていく方法を探る機会とするシンポジウムを開催した。 万代市民会館を会場に3部形式で開催。 環境省自然環境局野生生物課長の中尾文子氏の基調講演の他、秋田県八郎湖の環境学習について取り組むNPO団体の事例報告、里潟研究ネットワーク会議関係者を加えた座談会を行った。	座談会では出演者それぞれに潟に関する活動をどのように次世代につなげていきたいかを話してもらった。 次世代につなげるために、世代問わず新潟の潟について親しみをもつことが必要であり、里潟研究ネットワーク会議や本市に今後期待することはなにかを聞く機会となった。座談会を通して参加者がどの視点に関心をもったかアンケートで確認した。 新型コロナウイルス感染防止対策のため、基調講演者からはリモート参加してもらったが、参加者へ向けたオンライン配信はできなかった。	環境政策課
------------	------------------------------------	--	---------------	--	---	-------

目標（6）佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開

取り組み項目：ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
佐潟自然散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察する。	 	3月～10月までの毎月第2、4土曜日	94 佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟写真展	佐潟周辺の自然や景色の写真を公募し、展示する。	 	令和2年10月1日(木)～令和2年10月18日(日)	17 応募者数17名、応募者点数30点、自然豊かな佐潟を写真撮影した作品を募集し展示した。	自然の宝庫である佐潟周辺で撮影した写真を来館者に観ていただき感動を与えた。	佐潟水鳥・湿地センター
小鳥さえずる佐潟で春散歩	ボランティア解説員の案内で春の佐潟を散策し、野鳥を観察する。	 			新型コロナウイルスの影響を受けて中止	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟自然探検隊(さかたん)	小学生に佐潟の四季を体験してもらう通年企画で、第1回は田植えと漕舟体験の実施、第2回は水辺の生き物観察会の開催、第3回は稲刈りとはざ掛けの実施、第4回は冬鳥の観察を行う。	 			新型コロナウイルスの影響を受けて中止	佐潟水鳥・湿地センター
初夏の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、初夏の植物を観察する。	 			新型コロナウイルスの影響を受けて中止	佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名	
			開催日程	実施結果	効果と課題		
潟舟体験（佐潟まつり） 【再掲】	潟舟で湖面に繰り出して佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水生植物を観察する。	   	令和2年8月29日（土）		新型コロナウイルスの影響を受けて中止	佐潟と歩む赤塚の会	
初夏の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、初夏の植物を観察する。	 			新型コロナウイルスの影響を受けて中止		
水辺の生きもの観察教室	ボランティア解説員の案内で佐潟の水辺の生きものを観察する。	 			新型コロナウイルスの影響を受けて中止	佐潟水鳥・湿地センター	
夏の佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟の昆虫を観察する。	 	令和2年7月23日（木・祝）		雨天中止	佐潟水鳥・湿地センター	
秋の昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で秋の佐潟の昆虫を観察する。。	 	令和2年9月5日（土）		9 小学生以上を対象に、佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、秋の昆虫を観察した。	佐潟公園で昆虫を採取し、観察したり解説を聞きながら自然に親しみ、自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探鳥散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察する。	 	11月～2月までの第2、4土曜日		25 佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
冬鳥ウオッチング	ボランティア解説員の案内で佐潟の冬鳥を観察する。	 	令和2年12月5日（土）		16 佐潟公園で佐潟ボランティア解説員の案内の下、野鳥観察を行う。	佐潟ボランティア解説員から冬鳥の解説を聞きながら佐潟周辺を散策し、冬鳥が多く飛来する佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
「私の佐潟」文化祭	佐潟に関する絵、写真、書、俳句等の作品を募集し展示する。	 	令和3年2月6日（土）～2月28日（日）		39 応募者数39名、応募点数55作品（写真29点、書8点、イラスト4点、ぬりえ14点）	佐潟に魅力を感じている佐潟リピーターや来館者に作品発表の場を提供した。来館者に佐潟の魅力発見や癒しの場として楽しんでもらった。	佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R2年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
佐潟まつり 写真展示会	新型コロナウイルス感染拡大防止により中止となった佐潟まつりについて、ウイルスの早期収束と来年の開催を願って、代替イベントとして昨年のまつりを写真で展示した。		令和2年8月9日（日）～30日（日）	1,888 多くの来館者から観覧いただいた	地元団体と連携し、佐潟の魅力発信を図ったほか、地域支援につなげた。	佐潟水鳥・湿地センター
押し花で窓辺の飾りを作ろう	佐潟の押し花を利用して、工作を楽しむ	 	令和2年11月7日（土）	6 押し花や押し葉などを材料に、窓に飾って光の通る様子を楽しめる飾りを作った。	佐潟の植物を利用して、子ども向けに簡単な工作を楽しむ機会を提供した。	佐潟水鳥・湿地センター
早春の佐潟を歩こう	ボランティア解説員の案内で佐潟の植物や野鳥を観察しながら散策する。	 	令和3年3月20日（土）	9 佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物や野鳥を観察した。	早春の植物や野鳥などの自然解説を聞きながら自然に親しみ自然豊かな佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター